

会 議 録

1 会議名

令和元年度板倉区地域協議会地域活動支援事業審査基準検討部会

2 協議（公開・非公開の別）

・令和2年度地域活動支援事業採択方針等（案）について（公開）

3 開催日時

令和元年12月6日（金） 午後6時00分～午後7時45分

4 開催場所

板倉コミュニティプラザ 102会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者の氏名（敬称略）

・委 員：上野きみえ地域活動支援事業審査基準検討部会座長、長藤豊、小林良一、平井達夫、新井清三（以下、地域活動支援事業審査基準検討部会座長は座長と表記）

・事 務 局：板倉区総合事務所 村山地域振興班長、安原主事

8 発言の内容

【上野座長】

・会議の開会を宣言

【安原主事】

・配布資料の説明

【平井委員】

令和3年度には小学校統合により板倉区内の3校が廃校となる。板倉小学校設置推進協議会で閉校記念式典や記念品作成に地域活動支援事業を利用したいとの声があった。これについて皆さんの意見を聞きたい。

【上野座長】

教育委員会の閉校記念事業補助金については承知しているのか。

【平井委員】

閉校記念事業補助金については承知済みであるが、助成額に上限があるため、地元の負担を考えると地域活動支援事業を活用したいとのことである。

【村山地域振興班長】

1校のみが申請するとしたら不公平だという声が出ると思う。物品の購入や施設等の整備・修繕のみを目的とした、活動を伴わない事業は補助対象外であり、記念品作成や記念碑建立のみは該当としないこととなる。募集要項に追加するかどうかを判断してもらいたい。

【長藤委員】

今まで筒方小学校と寺野小学校が閉校したが、地域活動支援事業による支援はなかった。後援会や地元の協力により閉校事業を行ってきたことから見ると不公平だと思う。

【小林委員】

特例として認めてしまうとどのくらいの金額の提案がくるかわからない。閉校事業の申請額によって他の事業が提案どおりできなくなるのは問題である。採択方針に沿った事業なら採択できるが、特例として募集要項に記載する必要はないと思う。

【新井委員】

過去の閉校事業はすべて地元の協力で行ってきた。補助金で閉校記念事業を行うのはどうかと思う。

【小林委員】

明確な事業内容が分かっているならば検討の余地はあると思うが、現時点では検討は難しいと思う。

【村山地域振興班長】

新しく開校予定の小学校の楽器や備品を地域活動支援事業で事前に揃えたいという意見もあったが、提案した年度に活動を行うことができないため、申請できない。

閉校記念式は地域活動支援事業として提案可能であり、記念品作成も式典と併せて事業として行うのであれば問題ない。

【長藤委員】

閉校記念式典は令和3年の春ではないのか。

【村山地域振興班長】

式典は令和2年度中に開催することになる。

【長藤委員】

特に規定は盛り込まず、例年通り地域協議会で審査し、決定することでよいのではないか。

【小林委員】

今後、他の小学校が閉校したときに地域活動支援事業があるとは限らない。特例として盛り込むのではなく、地域活動支援事業の方針に沿った提案をしてもらいたい。

【平井委員】

閉校記念事業は地域の課題解決やその他の事業として板倉区の採択方針に当てはまると思われる。あえて規定を増やす必要はないと思う。

【上野座長】

それでは、閉校記念事業について特例として募集要項に盛り込むのではなく、提案があったら地域協議会委員で審査していくこととしてよいか。

(異議なし)

次に資料の4ページについて、共通審査基準について見直し、審査表の案を作成したのでご覧いただきたい。配点が5点ずつあるため審査項目を5つずつに作成してみた。この方が判断が明確になると思われる。私は委員になったばかりの頃ほどのように採点をしたらよいのかわからなかった。来年度には委員の改選もあり、新しく委員になった方にわかりやすく採点してもらえと思う。

【長藤委員】

点数はつけやすくなると思うが、各項目1点しかつかなくなってしまうため、特に秀でていると思った項目に多く点数を配分するという判断ができなくなってしまう。

【小林委員】

参加性の項目ではあえて区分する必要はないと思う。

【村山地域振興班長】

周知の方法によって参加性の範囲は区分することはできると思う。

【小林委員】

本来なら板倉区内で活動するのが基本で、板倉区内での活動が充実してから区外や県外にも活動の範囲を広げていくものである。

【平井委員】

このような審査表にした目的を教えてください。

【安原主事】

採点がしやすくなるとともに、思い入れや気持ちで極端な採点をする方が減ると考えた。

【小林委員】

各項目1点ずつにしてしまうと当てはまらないことが多く出てきてしまう可能性が考えられる。

【平井委員】

各項目にどのくらい満たしたら1点とする基準は設けるのか。

【安原主事】

各項目に当てはまるかどうかを判断するのは各委員とし、100%当てはまらないから0点、少し当てはまるから1点と判断するのは委員であり、すべて満たさないということは考えられないと思う。

【村山地域振興班長】

○×で機械的に審査したほうが公平であるとも考えられる。参考資料としてこのような審査方法もあるとし、配布することもできる。

【小林委員】

参加性については、県外までとなると足かせになりかねない。

【村山地域振興班長】

提案する団体も審査表を確認することで、点数をとりやすくなるのではないか。

【小林委員】

満点を狙って提案することは当然であるが、このように細かいと満点を狙うのが難しくなってしまうと思う。

【長藤委員】

事業を提案する側から考えると、一つ一つ満たすよう提案を修正する必要がある
ので申請しづらくなると考えられる。審査の際に使うのではなく、提案団体に参考
として配布するのは問題ないと思う。

【小林委員】

無理やり項目に当てはめる提案になってしまうことも考えられる。

【村山地域振興班長】

前回の検証で共通審査基準項目の配点を変えることで事業の点数差をつけること
を検討していくこととしたが、審査項目をわかりやすくすることで、公平な審査と
なり良い事業は点数が伸びると思う。

【上野座長】

このように細分化する必要はないということか。

【小林委員】

項目を細かくし1点ずつとするのではない。参加者も地元から多数集まる事業で
あるのに区外や県外から人が来ないからといって、加点されないのはおかしいと思
う。

【長藤委員】

この項目の中に似たような項目がいくつかある。かえって判断しづらいのではな
いか。

【小林委員】

今までの審査基準の方がすっきりしており、わかりやすいと思う。

【長藤委員】

以前話していた、項目の点数配分を変えることがよいのではないか。

【小林委員】

大事な項目の比重を大きくし、よりよい事業の順位が上がるようにした方がよい。

【村山地域振興班長】

地域活動支援事業の審査が負担であるとの意見もあり、審査表を統一することで
簡易になると考える。各自の判断で点数を高くするのであれば今までのままでよい
と思う。

【上野座長】

それでは今年同様とし、重要事項の点数配分を変更することとしてよいか。

(異議なし)

どの項目の点数を変更するか協議していただきたい。

【平井委員】

公益性が最も重要だと思う。5点から10点にしてみてもどうか。

【長藤委員】

必要性も重要であると思う。

【小林委員】

もちろんすべての項目が重要であるが、すべての項目を7点等の点数にすると点数がつけづらい。どの項目が重要であるか提案する側もわかりやすくするために、1つ10点の項目をつくったらどうか。私は公益性が最も重要だと思う。

【上野座長】

それでは来年度の審査項目の公益性を10点にすることとしてよいか。

(異議なし)

【村山地域振興班長】

来年度スケジュールは今年と同様のスケジュールでよいか。

(異議なし)

【上野座長】

その他地域活動支援事業の目的・効果に照らした検証・検討等について、質問・意見はあるか。

(意見なし)

他に意見が無いようなので、以上で本日の会議を終了する。

9 問合せ先

板倉区総合事務所総務・地域振興グループ Tel.0255-78-2141 (内線123)

E-mail : itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。